



五小だより

国立市立国立第五小学校
学校だより

No. 1

平成29年4月6日

胸躍る4月・・・たくさんの「わくわく」をぜひ、一緒に！

校長 大山紀子



「今年は、卒業式には桜はちょっと早かったわね」「でも入学式にはよいころかもしれないね」・・・毎年、卒業式にいらっしゃる来賓の方と交わす会話には必ず桜が話題になり、私たちは本当に桜が好きなのだな、と改めて気付きます。

そして今、「爛漫」という言葉が正にふさわしい、桜あふれる国立の街を通勤できる嬉しさに胸躍る春が巡ってきました。

先月24日に卒業生62名が巣立ち、本日新生62名を迎え、児童数387名で、新学期を迎えました。お子様のご入学・ご進級を教職員一同、心よりお祝い申し上げます。

この3日、国立市の新規採用教員に向けて講話をする機会をいただきました。その際に話したのは、「誰からも、何事からも学び続ける」、これが大切であるということです。子供の世界を尊重して子供の心に寄り添い、そこから学ぶ。保護者の方との関わりを通して、子供をよりよく育てていきたいという思いを共有することで学ぶ。職場の先輩、同僚から、貪欲に指導技術の向上について学ぶ・・・そして、教師の仕事の恐ろしさも常に心のどこかにおくこと、ということも話しました。私たちは、学習指導要領に定められた各学年の指導事項を、教員経験の多寡に関わらず、しっかりと指導し、身に付けさせるべき力を身に付けさせなければいけないこと。いざとなったら自分で判断して子供の命を守るべく動かなければならないこともあること。

これらのことは、新規採用教員だけに当てはまることではありません。全教職員がその職責の重さを忘れてはいけないことを平成29年度の学校経営方針を示す中で、本校教職員に伝えました。

ただ、その職責の重さをもってしても、それ以上の喜びがあるのがこの仕事だと思っています。昨年度、子供たちと交わした日々の会話を紹介します。

○12月1日。朝、ある1年生が挨拶もそこそこに小走りで私に駆け寄り、

「サンタさんがやってくる日が近づいてきたよ！」

○別の日。出勤途中で出会った子。赤いベレー帽をかぶっている私を見て。「校長先生、赤ずきんみたいだねえ。」

○放課後キッズで

「校長先生！私今日初めて二重跳びができたんだよ！」

「すごいね！・・・みんなはいいなあ、初めてできた、っていうのがこれからもたくさんあるんだよね。大人になると、そんなことはあんまりなくなって、前できたのに、できなくなっちゃうことが増えるの。」

「ふうん、反対なんだね。でも、一個ぐらいはできるようになることあるよ、きっと。」



何気ない日々の生活の中でも、こんなに楽しいことをたくさんプレゼントしてくれる子供たちとの新たな1年が本当に楽しみです。ぜひ皆様にも一緒にたくさんの「わくわく」を楽しんでいただけるようよう、本校の教育活動を進めてまいります。どうぞご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。